

編集 報道委員会委員長 瀧元 智恵	第 203 号 2024 年 9 月		発行 (一社)大学女性協会 札幌支部 支部長 朝日 幸世
-------------------------	--------------------------	------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------

## 2024 年度 大学女性協会札幌支部 定時総会

2024 年 4 月 24 日札幌エルプラザにて 2024 年度札幌支部総会が開催されました。コロナ禍以降 ZOOM の利便性に目覚めてしまい、オンラインでの活動が増え、それはそれで効率の良い活動となり満足度は高いのですが、一方で対面でお話できるチャンスも減ってしまったので、この総会にて会員の皆さまの顔を拝見することができ嬉しかったです。今年度は 6 名の出席者のもと、脱線話に花の咲く和気藹々とした総会となりました。特に新年会にご出席いただいた藤田洋子会員の話題が人気であり、会員皆さんが新年会で藤田さんにお会いできたことがどれほどの喜びだったのかを皆で分かち合える機会となりました。

2023 年度の収支決算は、驚くべきことに**黒字**となりました。昨年度は札幌支部該当の国内奨学生応募者が無く（これもビックリでしたが）支部奨学金の支出がなかったことの影響が大きかったのですが、それ以外にもオンライン活動の普及、ミニ・ニュースのペーパーレス化など全面的な支部の活動における経費の抑制に取り組んだ賜物と思われます。会員の皆さまで持続可能な支部活動への意識を共有しただけで、これほどの効果を生み出したことは称賛に値するべきですね。特に会計担当の川岸会員のご尽力に感謝申し上げます。これからも活動は豪華に、経費は簡素にしていけるといいですね。

総会にて一番大きな議論事項となったのが、ZOOM 役員会に役員以外の支部会員にも参加していただきたいという事案でした。会員数が減少してしまい、会員のほとんどが役員となっている中で、活動の減少に伴い役員会が貴重なコミュニケーションの場となっている現状を踏まえ、会員全員参加型の ZOOM ミーティングをどのように開催できるのかを検討しました。結果、今年度からは支部会員全員招致の会議を「ZOOM ミーティング」と称して開催していくことが決まりました。ぜひ多くの会員の皆様と楽しく交流できる場にしていけたらと思います。他にも今年度の活動のアイデアが多数あがる実りある総会となりました。 （瀧元 記）



## 第1回 例会報告『子どもたちのセーフティネットをオンラインと繁華街で作る挑戦』

去る7月3日に研修・文化委員会主催の第1回例会が開催されました。今回は神戸市在住の認定NPO法人D×P理事長の今井紀明さんを講師としてお迎えし、『子どもたちのセーフティネットをオンラインと繁華街で作る挑戦』と題するZOOM講演会をお願いしました。今井さんは札幌市出身で、講演の始まる前には参加者のお住いの場所を知りたいと声をかけられ、参加者との和気藹々としたコミュニケーションをとられました。オンライン上とはいえ、雰囲気作りもさすがでした。

講演では、D×Pの活動を紹介されました。D×Pは、子どもたちのセーフティネット作りを目的とし、行政の手が届いていないLINEでの相談を受け付け、全国から若者たちの相談にのっています。若者が安心して相談できることを大切に、彼らの希望を聞き、新たな一歩を一緒に考えてあげて公的機関や就職先につなげる。加えて、生活困難な若者には金銭や食料品を直接届けられるように工夫し、ひとりひとりのニーズに合わせて送付するなどきめ細かい気配りをされていました。また、繁華街にたむろする行き場のないユースのために道頓堀にユースセンターを開設し、食事や相談、居場所の提供も行っていました。今井さんのお話からは、携帯電話は持っているものの、家族から食事を与えて貰えなかったり、家族や友人との心の確執を抱えていたり、問題を抱えた子どもたちが孤立しているという現実が浮かび上がってきました。日本は物資的に豊かな時代になりましたが、社会全体が貧しかったころの相互扶助関係を失い、深刻化した貧困を抱える若者を生んでしまっているようです。

D×Pの活動は、活動の中でどんどん若者の問題を汲み取り、その問題をほおっておかず次新たな活動へつなげていて、とてもスピーディーで真摯な姿が印象的でした。D×Pの活動は寄付金で成り立っているため、多くの方々にこの活動を知っていただき、支援の輪を広げていただけたら嬉しいと感じました。

例会の参加者からは、早速寄付金を振り込まれたとの報告の声も聞かれ、例会を企画した私としてもとても心温まりました。ご参加いただいた東京支部、札幌支部、また会員のご友人の皆さま、ご参加ありがとうございました。講師の今井さんには本当にパワーみなぎる活動の報告を伺うことができ大変感謝しております。

(瀧元 記)



## 五ノ戸の森緑地吟行記

六月八日（土）のやや陽射しの強い一日。季語である「夏帽子」や「日傘」を各々手にし、篠路五ノ戸の森緑地へ吟行に出かけた。

J Rの篠路駅から歩いてまずは篠路神社へ。ここは札幌で一番古いと言われている神社で、境内にはアカシアの花が咲き満ちていた。アカシアの花は夏の季語である。アカシアの花はニセアカシアとも呼ばれ、花はクリーム色で房状になって咲く。かぐわしい香りは、アカシアの樹下を通る人々を心地よく酔わせて、我々俳人の俳句脳を優しく刺激する。アカシアの花の下で俳人たちは何を詠んだのだろう。それぞれの思いを込めた佳句ができあがったに違いない。

その後、吟行の主目的地であるアオサギのコロニーのある「篠路五ノ戸の森緑地」へ移動した。「五ノ戸」とは上篠路地区北部を指す旧称で、由来は「最初の入植者が五戸だったから」あるいは「青森県五戸町から入植してきたから」とも言われる。もとは農家の屋敷林であった森を、札幌市が譲り受け、都市緑地として整備した。湿地や小川が残っているため生態系が豊かで、約二百種の植物がみられるビオトープになっている。特にアオサギの営巣地として有名であり撮影に訪れる人も多い。

森の中は鬱蒼として、まるで原始林のようだ。散歩道を歩き鳥の鳴き声に誘われ、空を見上げるとアオサギの飛ぶ姿がちらほら見える。コロニーとなっているため気を付けないと、アオサギの糞が落ちてくる。時折、糞だけでなく鳥の死骸が落ちてくるとは陽美保子先生より聞いていたのだが、本当に落ちてきて、驚き悲鳴をあげて逃げまどってしまった。アオサギの悠々と飛翔する姿が印象的で首が痛くなるまで眺めた。

また句会場へ向かう途中に皆で見かけた榎松の木に絡みつ়く藤の花がとても美しく、珍しくて人目を引いた。大変印象的な景だったので、これを詠む人は多いだろうと思っていた。

句会は、篠路コミュニティセンター会議室で開かれた。吟行句五句出しによる句会で、陽美保子先生から全句についてご指導をいただいた。六名中三名が榎松（とどまつ）に絡みつ়く藤の花の景を詠んだ。詠む人により、見る対象が同じでも表現がそれぞれ異なっていたことも実に興味深かった。藤の花は季語では春に分類されるが、吟行なので夏に詠んでも差し支えない。その場で見たものを詠む醍醐味が吟行にはある。ひと時の訪れで経験する様々なものとの触れ合い、出会いが吟行の最大の楽しみであろう。暑い中、参加したメンバー六名にとって非常に有意義な一日となった。（下山春陽記）



Jカフェ (2024. 6.22)

「聖母マリアの晩年～東と西の図像交流をたどる～」に参加して

講師の桑原夏子氏は2011年のJAUW国内奨学生でもあり、その後フィレンツェ大学に留学、博士号を取得され、現在は早稲田大学高等研究所で講師をなさっています。今回のJカフェは58名の参加があり、桑原氏への興味の高さがうかがわれました。

マリアの伝承について聖書ではキリストが磔刑にあった直後にキリストの弟子たちと一緒に祈ったという短い文章があるだけで、その後について一切触れられていないのにもかかわらず、地中海圏ではマリアを神の母として崇拜し、聖母マリアの死の告知、昇天、戴冠などの図像が多く残されています。今回は5世紀から16世紀に焦点を絞り、ご自身が撮った沢山の画像のご説明、そして歴史、地理的背景を交え、どのように伝播していったかをお話されました。内容は専門的ではありませんでしたが、門外漢にも分かりやすいよう、マリアに対する宗派の解釈の違いや、ルネサンスの影響などの補足説明があり理解を深めることができました。また、交通手段の非常に悪い場所にある教会等を巡るご苦労話や、どのように図像の年代や作者を特定するかについて、年代がわからない時は額や画材の材質、耳の形、爪の描き方などから類似した物を探すなど具体的なお話も伺うことが出来ました。私自身は初めてのJカフェ参加でしたが、また参加してみたいと興味をかきたてられるような内容でした。

(押谷君予)

大学女性協会のJカフェは、内容は多岐にわたり興味深い話題を取り上げていますので、ぜひ皆さまご参加されましたら、ミニ・ニュースに感想を寄せて、他の会員にご紹介ください。よろしく願いいたします。この度は押谷さん、ご寄稿いただきありがとうございました。

## 研修・文化委員会主催 例会『開拓期の女学生』

日時：12月19日(木) 18:00~19:30

場所：豊平館(中島公園内)

堀内会員に紹介していただいた、豊平館で開催されている歴史連続講座に会員の皆さんと一緒に参加して、食事をしながら感想などを交換しましょうという会です。皆さまのご予定を空けておいてください。豊平館という素敵な空間で開拓期の女性に想いを馳せましょう。